俳句を作ろう　①

ニュージャージー補習授業校（平成２４年１０月２０日）

保護者の皆様へ　ご家庭でも、俳句を作らせてみてください。俳句を作るコツを体得すると一生の宝になります。児童・生徒の皆さん。ふっと感じたことを五七五のリズムで書き留めてみましょう。授業で、作ったことがある人もいるでしょう。その事も思い出して作ってみましょう。

そのコツをお知らせしますので、作ってみましょう。

【俳句とは】

俳句とは、五・七・五の十七音から成る日本古来の定型詩です。

「季語」といわれる、季節を表す言葉を入れなければいけないルールがあります。（一句に一つが原則です。）

【俳句の歴史】

俳句は、奈良時代、平安時代の和歌をもとに室町時代の連歌の上の句が独立してできました。

江戸時代には「俳諧」と呼ばれ、松尾芭蕉や小林一茶、与謝蕪村などが活躍しました。

明治時代になり、正岡子規が「俳句」と名付けました。その形が今に伝わり大勢の人々が句を作っています。

【何を表すか】

俳句は、十七音という限られた文字数で、**自然の美しさ**や**人の気持ち**を表現します。

しかし、**作文と同じで、「美しい」とか「楽しい」などの様子を表す言葉（形容詞・形容動詞といいます）は、ぜったいに使いません。**使った瞬間にその句は俳句でなくなると言っても過言ではありません。

言い換えれば、形容詞を使わずに**自然の美しさ**や**人の気持ち**を表現するのが**俳句**です。

【俳句の特長】

作文など長い生活文を書くことが苦手な子がいます。詳しい文章や長い文章が書きにくい子がいます。

無理強いをすると、書くことが嫌になったり、苦手になることがあります。そこで、俳句の登場です。

五・七・五の十七音という短い詩なので、身近な生活を比較的気楽に表現できる特長があります。

また、たくさん作ることができます。歴史的にも、**「矢数俳句」**といって、江戸時代の大阪の井原西鶴は一昼夜に二万三千句作ったといわれています（これは邪道ですが・・・）。気軽に作ることができます。

さて、これからが俳句の作り方です。

【どのように作るのか】

紹介します。俳句を作るための指導法は、岐阜県池田町立音知小学校教諭 **高木恵理先生**の実践です。

『国語教育』第７４５号　平成２４年２月号　明治図書より

◎感動の瞬間を切り取る。五段階で書く。次号で説明します。

感動は、「うれしかった」「たのしかった」「かっこいい」「おどろいた」「かなしかった」「くやしかった」「なるほどな」「不思議だ」など、できごとを通して、心にぐっと迫ってきたことです。

まず**普段の生活の中で、感動したことを見つけること**です。

【例】

＊習い事→野球、テニス、サッカー、習字、ピアノなど
＊家族→一緒にしたこと、家族の病気、家族の仕事、飼っている動物など
＊友だちのこと→けんかしたこと、友だちのことばなど
＊自然や草花→季節の移り変わり、鳥の鳴き声、月、花、草、せみ、風など

（続く）

季語一覧

古典俳句の春は一～三月、近代俳句の春は二～四月、気象学上の春は三～五月。

一か月ずつずれている。

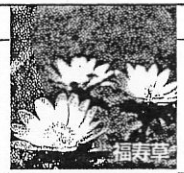
中学生用『国語便覧』浜島書店より p164～165

新年

天文・地理	時候	人事	動物	植物
初空・初日・初東風・初富士・初景色・若菜野・初凪	新年・旧年・今年・去年・元旦・松の内	門松・雑煮・数の子・独楽・羽子板・初詣・書初・百人一首・年賀状	嫁が君・初鶏・初雀	楪・橙・歯朶・福寿草・若菜

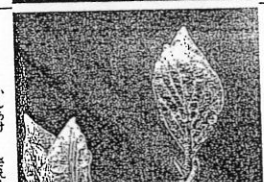
初富士

羽子板

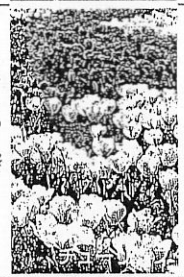

福寿草

春（旧 一～三月 新 二～四月）

天文・地理	時候	人事	動物	植物
朧月・東風・風光る・陽炎・菜種梅雨・花曇・春一番・鳥雲に入る・霞・水温む・春潮・苗代・残雪（雪残る）・雪解・雪崩・逃水・山笑う・凍解・流氷	立春・寒明・冴返る・清明・穀雨・余寒・仲春・啓蟄・暖か・麗か・長閑・日永・遅日・夏近し・八十八夜・蛙の目借時・彼岸	試験・入学・卒業・遠足・北窓開く・田楽・草餅・麦踏・茶摘・種蒔・挿木・磯遊び・凧・朝寝・針供養・雛祭・御水取・西行忌・高山祭・しゃぼん玉	仔馬・鹿の角落つ・猫の恋・鶯・雲雀・燕・帰る雁・雀の子・巣立・囀り・蛙・公魚・白魚・蛤・浅蜊・桜貝・蛇穴を出る・蝶・蜂・穴を出る	花・桜・梅・椿・つつじ・蕗のとう・沈丁花・馬酔木・蓬・パンジー・チューリップ・菜の花・木の芽・柳・蒲公英・土筆・大根の花・若草・黄水仙・藤


暖か・木の芽

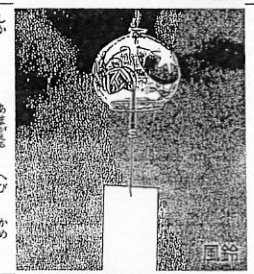
白魚

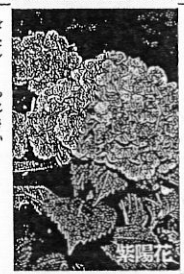

チューリップ

夏（旧 四～六月 新 五～七月）

天文・地理	時候	人事	動物	植物
南風・薫風・朝凪・梅雨・五月雨・夕立・虹・雲の峰・雷・夕焼・旱・日蔭・泉・滝・青田・雲海・雪渓・清水・山清水	麦秋・入梅・炎昼・短夜・土用・三伏・暑し・涼し・秋近し・秋を待つ・夜の秋	更衣・浴衣・端午・吹流し・田植・汗・日焼・ハンカチ・麦藁帽・クーラー・冷麦・蚊帳・団扇・風鈴・プール・花火・噴水・海水浴・登山・ナイター・祭	鹿の子・雨蛙・蛇・亀・時鳥・仏法僧・鵜・鯖・鮎・金魚・目高・鰹・鰻・蟹・毛虫・蛍・蟬・蝸牛・蟻・蠅・蚊・甲虫・金亀子・夜光虫	牡丹・紫陽花・さくらんぼ・バナナ・百日紅・あやめ・百合・向日葵・卯の花・筍・瓜・麦・トマト・葉桜・若葉・新緑・万緑・木下闇・青葉・昼顔

麦秋


風鈴


紫陽花

秋（旧 七～九月 新 八～一〇月）

天文・地理	時候	人事	動物	植物
月・名月・星月夜・天の川・流星・野分・台風・稲光り・霧・露・いわし雲・富士の初雪・刈田・落し水・花野・花壇・初潮・不知火	残暑・秋めく・天高し・二百十日・夜長・冷やか・新涼・爽やか・夜寒・身に入む・仲秋・行秋・冬隣り	七夕・迎火・盆・中元・灯籠・踊・稲刈・新米・籾・豊年・墓参・紅葉狩・夜なべ・新酒・月見・運動会・文化祭・共同募金・障子貼る・冬支度	鹿・馬肥ゆる・小鳥来る・燕帰る・雁・落鮎・秋刀魚・鮭・鰯・蜻蛉・蜉蝣・虫・虫の音・松虫・蟋蟀・蓑虫・蜩・蟷螂・啄木鳥	桃・梨・林檎・葡萄・栗・どんぐり・銀杏・紅葉・竹の春・朝顔・コスモス・菊・南瓜・糸瓜・芋・稲・萩・芒・竜胆・菌・草の実・桐一葉・木の実

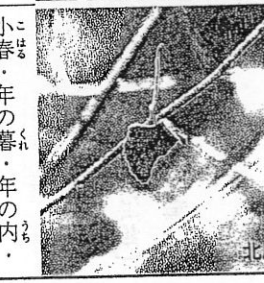
いわし雲

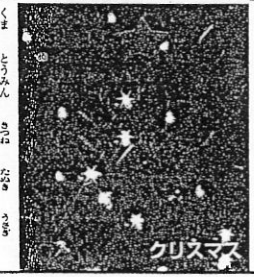
月見

紅葉

冬（旧 一〇～三月 新 二～一月）

天文・地理	時候	人事	動物	植物
凩（木枯）・北風・空風・隙間風・時雨・霧氷・霜・霙・雪・風花・霰・山眠る・枯野・氷・水涸れ・氷柱・狐火	小春・年の暮・年の内・行年・年越・除夜・寒の入・大寒・短日・冷たし・寒さ・底冷え・凍る・三寒四温・春近し・節分	煤払・歳暮・餅・炬燵・セーター・毛糸編む・マフラー・ブーツ・焚火・クリスマス・障子・ストーブ・風邪・咳・マスク・竹馬・なわとび・スケート・ラグビー・雪見	熊・冬眠・狐・狸・兎・鯨・鷹・寒雀・鴨・鷲・梟・鶴渡る・白鳥・千鳥・鰤・鮪・河豚・かき・氷魚・冬蜂・水鳥	冬菊・寒椿・山茶花・帰り花・蜜柑・落葉・木の葉・枯葉・枯木・枯れる・水仙・白菜・人参・葱・大根・麦の芽・ポインセチア・冬木


北風


クリスマス

冬木